Libra I on vol.37

りぶらいおん

http://www.libra-sc.jp

特集：5/24（日）「りぶらフォーラム」を開催しました

公共施設計画における持続的な市民参加についての研究
ー 3 つの文化複合施設を対象としてー

- りぶら中央図書館情報
- 私の一冊　vol.32
- りぶらサポータークラブからのお知らせ

Libra りぶら
岡崎市図書館交流プラザ

図書館交流プラザ（愛称:Libra）は、「図書館」「活動支援」「文化創造」「交流」の 4 つの機能で構成されています。りぶらサポータークラブ (LSC) は、Libra の施設活用をサポートする活動をしています。

りぶらいおん©LSC

りぶらフォーラム
「市民が主役になる公共施設」

平成 27 年度のりぶらサポータークラブの総会に続き、右のテーマで「りぶらフォーラム」が開催されました。参加者は、約 50 名。来賓として、中央図書館長の水越氏にご参加いただき、ご挨拶を賜りました。

両氏の講演後は、新しくりぶらサポータークラブの代表に就任した杉浦も交え、質問を受けながらのパネルディスカッションが開かれました。職員はもとより、LSC の運営委員の世代交代も進む中で、改めて市民参加の経過から今日の活動までを振り返ることができ、今後の活動の指針となりました。

日時：5 月 24 日（日）14:30 ～ 16:00
場所：りぶらホール

1．りぶらの市民参加デザインを振り返る
　講師：三矢勝司
2．3 つの事例から市民協働による施設運営を考える
　講師：高野洋平
3．パネルディスカッション・質疑など
　三矢氏・高野氏・杉浦仁美（LSC 代表）

りぶらの市民参加デザインを振り返る：三矢勝司

市民意識の空間化（2004,05）

岡崎市では、ワークショップ手法を導入した市民と行政の競争的対話の場は、りぶらのワークショップが初めての試みでした。衰退への対応が期待される中心市街地への関心の高まりを受け、140 名を超える市民が会場に押し寄せました。「図書館をつくって中心市街地に経済効果はあるのか」等、手厳しい反対論者もいましたが「文化による地区の活性化」という社会ビジョンを分かち合う機会ともなりました。

参加者は、中学生や大学生、主婦層や年配層等、多様な世代と属性が参加する場となりました。施設空間への期待の語り合い、建設予定地の敷地の読み解きを市民と行政の担当者が一緒に行うことで、共通イメージの涵養が進みました。敷地がもっている歴史的な背景（岡崎城のお堀が巡っていた場所の歴史）や、地理的景観的意味合い（ビスタラインや伊賀川への連続性）が共有され、市民の思いと社会環境の制約条件を織り込む施設デザインが共感を得られました。

更に、図書館管理のしやすさと市民の利用しやすさを巡って、市民と行政の意見の食い違いや対立（北側入り口の設置など）もありましたが、「えんがわスポット」を設け、誰でも気軽に意見が言え、進捗状況を把握できる場所があったことで、市民の参加意識を高める役割を果たしました。また、問題を一つずつ丁寧に扱い、建築技術による解決（日射遮蔽、音の制御）や施設運営上の解決等が提示され、市民、専門家、行政が英知を寄せ合わせて建築設計が進められました。こうした誠意ある市民意見への応答に共鳴するように「市民は要望するだけではなく、自分達でできるところから担っていこう」という機運が高まっていきました。

施設空間の公共化（2006,07）

施設空間のハードが固まってきた 2005 年終盤には、市民意識の高揚を受け、中間支援組織から「今後も継続的な議論の場をつくろう」とソフトづくりの開始を提案しました。賛同する市民らの意見を整理し、分科会を設定し、ホール活用、託児の実現、新しい図書館のあり方の模索等、市民主導の実験的事業の着手へと展開しました。

2007 年を迎え、中間支援組織側から「プロジェクト制の導入」の提案は、元々開かれた議論の場（ワークショップ）の中から生まれた部会活動へと発展しました。メンバーの輪郭が不明確で、折角活動を立ち上げても、実施体制や責任が不明瞭となり、特定のメンバーに負担が行ってしまう問題がありましたので、プロジェクトの計画を立ててから活動を進めるスタイルへの変更が有効でした。

このことが、後に続く組織化の基礎固めとなり、週 2 日の託児サービスを担うグループや、月 1 回の岡崎の昔話を語る場を担うグループ、りぶらを基点に散策マップを制作販売するグループ等、りぶら開館後も持続的に事業（サービス）実施を担う小さな組織が生まれていきました。

公共圏の誘発（2008）

りぶら開館となる 2008 年 11 月を迎えて、りぶらサポーターの組織化が進み、具体的な事業実施を担う

小さな組織を束ねて、一つのまとまりある組織とすべく、代表や役員の選定、規約を整理しました。活動に伴う人や物や資金のマネジメント等の事務局機能は、それまで3年間は中間支援組織が担ってきました。その後、自立した市民組織となり「りぶらサポータークラブ（以下、LSC）」と命名されました。

岡崎市のりぶら管理運営計画の中でも、LSCとの協働が明記され、名実ともに、行政のパートナー団体として位置づけられました。LSCの運営委員会には、中間支援組織担当職員、りぶら担当職員も参加し、定期的に情報を共有しながら、事業を進めています。例えば、りぶら内の共用部にある大階段を活用した「冬のコンサート」は、LSC（市民）側からの発意から、行政との協議、調整、協力を得て、施設空間あるいは都市空間を使いこなす関係性が成立しています。活動実績が明らかになる度に、ボランティアが集まり、活動が生まれる好循環が展開し、現在では、「りぶら講座」や「シネマ・ド・りぶら」など、多くの参加者を呼び込む協働事業が開催されています。

まとめ

「りぶらをつくる」という一連のプロセスにおいて、行政による判断にも支えられ、中間支援組織による継続的支援が可能となり、競争的対話が持続的に実現しました。その成果として、①利用者視点の使い勝手が向上した（出入口の位置や、川との一体性）、②施設をきっかけにまちを知る機会が生まれた（歴史や自然）、③市民参加の文化が醸成した（ネットワークの広がり、市民と行政の協働）が挙げられます。

まさに、りぶらは、計画づくりから運営までのプロセスを通じて、市民性を涵養し、公共圏を誘発していく、新たな公共空間の可能性を示す場となっています。

3つの事例から市民協働による施設運営を考える：高野 洋平

生き生きとした公共施設をつくることを目指して

千葉大学の三矢氏の後輩として、2003年の四街道市南部総合福祉センターのワークショップに参加したのが、公共施設に関わる最初でした。

卒業後、佐藤総合計画の社員として「りぶら」に関わることになりました。2013年に独立した現在も、「市民参加でつくる公共施設はいかにしてつくられるのか、つくられた公共施設はいかにして使われるのか」に関心があり、千葉大学大学院工学研究科の博士後期課程に在籍し、公共施設計画における持続的な市民参加についての研究に取り組んでいます。

公共施設計画における持続的な市民参加について

2014年3月に全国の参加型公共施設161事例についてのアンケート調査を行い、8月～10月に今日発表する3つの文化複合施設に現地ヒアリング調査を行いました。

公共施設における市民参加の全体傾向は以下の通りです。

①運営段階において、市民参加がしやすい用途は、文化機能、生涯学習機能を持つ施設、及びこれらの複合施設である。
②計画段階において管理運営検討に市民参加を取り入れた事例は 「活動主体」「運営主体」が形成される割合が高い。
③計画段階で市民グループが形成された場合、運営段階まで継続する事例が多く、運営段階の主体形成につながっている。

3つの市民参加型公共施設事例にみる持続的な市民参加の特徴

3事例の概要

岡崎市図書館交流プラザ

所在地	愛知県岡崎市康生通西 4-71
竣工年	2008 年 3 月
開館日	2008 年 11 月 1 日
規模	地上 3 階
延床面積	23,710.55 ㎡
主要用途	図書館　ホール　生涯学習
設置者	岡崎市
運営者	岡崎市
設計者	佐藤総合計画
市民参加コーディネート	NPO 法人まちの縁側育み隊 NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた
計画段階で結成された市民グループ	りぶらサポータークラブ

せんだいメディアテーク

所在地	宮城県仙台市青葉区春日 2-1
竣工年	2000 年 8 月
開館日	2001 年 1 月 26 日
規模	地下 2 階　地上 8 階
延床面積	21,682.15 ㎡
主要用途	図書館　ギャラリー
設置者	仙台市
運営者	公益財団法人　仙台市市民文化事業団
設計者	伊東豊雄建築設計事務所
市民参加コーディネート	せんだいメディアテーク プロジェクトチーム
計画段階で結成された市民グループ	なし

茅野市民館

所在地	長野県茅野市塚原 1-1-1
竣工年	2005 年 3 月
開館日	2005 年 10 月 1 日
規模	地下 1 階　地上 3 階
延床面積	10,806.37 ㎡
主要用途	ホール　美術館　図書館
設置者	茅野市
運営者	株式会社地域文化創造
設計者	古谷誠章 +NASCA
市民参加コーディネート	倉田直道、古谷誠章 +NASCA シアターワークショップ
計画段階で結成された市民グループ	NPO 法人サポート C

施設名称		岡崎市図書館交流プラザ	せんだいメディアテーク	茅野市民館
計画段階	支援する専門家	まちづくりNPO	建築家を中心とした専門家グループ	都市計画専門家 建築家・劇場専門家
	主な参加手法	市民参加ワークショップ 市民グループの主体形成支援	公開による市民懇談会 市民協働によるプレイベント	市民参加ワークショップ 市民グループの主体形成支援
	運営段階への成果	管理運営計画策定 市民グループ結成	コンセプトブック	管理運営計画策定 市民グループ結成
運営段階	運営者	行政直営	指定管理者	指定管理者
	協働する市民組織	計画段階から継続する市民グループ	任意の市民グループ	計画段階から継続する市民NPO
	市民協働の特徴	協働事業の実施 施設利用者の中間支援	協働事業の実施	協働事業の実施 施設利用者の中間支援

【岡崎市図書館交流プラザ】

計画プロセス

・具体案のない状態からスタート。計画コンセプトを共有しながら、市民参加ワークショップで判断を重ねながら設計を進める。
・計画段階から市民グループを結成し、開館後の施設運営を具体化する。

施設運営

・りぶらサポータークラブ（LSC）が、市民参加による計画コンセプトを継承し施設と利用者をつなぐ役割を果たす。
・施設利用にあたっては、LSC の企画で共用部利用等が実現している。
・LSC は、ワークショップからのメンバーが中心となっており、持続性のある仕組みの定着が重要である。

【せんだいメディアテーク】

計画プロセス

・具体的な計画案を選ぶコンペ方式の採用。
・すべての市民に開かれた「バリアのない」施設をつくるという理念を前提に、明確な骨格を持った建築コンセプトの中で利用を具体化する。
・計画時から市民協働によるプレイベント等を開催。
・専門家を中心としたグループが計画から運営までのコンセプトを具体化。

施設運営

・「コンセプトブック」の理念に沿った施設運営。
・多くの事業を指定管理者と不特定の市民グループの協働によって運営。
・市民グループの中では意識の差もあり、今後「コンセプトブック」の理念を継承していく主体が重要。

【茅野市民館】

計画プロセス

・プロポーザル提案をベースに、専門家と市民が密度の高い議論を重ねながら具体的な運営イメージが明確な施設をつくりあげた。
・市民参加によるコンセプトを実現するための仕組みを計画段階で具体化。

①市民参加の理念を明記した管理運営計画の策定
②管理運営計画を実現するための指定管理者の設置
③ワークショップから参加する市民を NPO グループ化
④全館の一体的な運営の明確化

施設運営
・管理運営計画に沿った施設運営の継続。

公共施設における持続的な市民参加にむけて
①運営段階における市民参加を実現するためには、計画段階で運営の担い手となる市民グループを組織化することや、市民参加の理念を具体的な運営指針として位置づけることが重要。

②運営段階の市民参加を持続するためには、施設の運営指針の中に運営組織と市民組織による協働運営を位置づけること、施設運営者から市民組織への業務委託などによって事業性を担保することが必要。

③共用部利用や機能横断利用など、市民参加による計画ならではのコンセプトに基づいた空間利用イメージの実現においては、施設管理上の制約がハードルとなるため、運営指針の中に利用規約を位置づけることが効果的。

④計画段階から継続する市民グループは、利用者の中間支援等、施設全体の持続的な運営についての視点に立った市民協働の実現において重要な存在。

⑤今後の世代交代の仕組みは共通した検討課題。

パネルディスカッション：三矢勝司・高野 洋平・杉浦仁美

パネルディスカッションは「市民協働」に関する話題から始まりました。高野氏の講演では、りぶらを含めて三つのタイプが示されていました。りぶらでは実際にどんな動きがあったのでしょう。

高野：一口に市民といっても裾野が広いんです。りぶらの場合、意識も能力も高い人たちが集まることができたのかなと思ってます。
三矢：市民有志で、ここまでできてるのがユニークですよね。僕も当時「まち育てセンター・りた」の立場でりぶらサポーターの事務局を担っていましたが、徐々にサポーター主体で市との協働事業をやり始めましたよね。その辺りは、どんな感じでしたか。
杉浦：「りた」さんに安心してお任せしつつ、いろいろ学んでいました。移行に伴って外注費分が自前で活用できるようになりましたので、行政から期待されている分に、プラスアルファした活動をしようという意識で活動しています。
三矢：なるほど。それにしても茅野市は随分思い切りましたよね。行政主導で指定管理をする会社まで作っちゃうなんて……。
高野：大きな市ではないので、行政として割ける人員に限りがあるんです。そうした現実をふまえた工夫です。それでもあの一体的な運営は魅力ですよね。
三矢：りぶらにも開館当初「管理運営計画」があって、縦割りになりがちな行政サービスを横断的にやろうと高い理想を掲げていました。でも現実にはなかなか難しい。あるべき姿に立ち返って検証するのも有意義でしょうね。
杉浦：そういえば講演で「りぶら」という名前の由来が紹介されていましたが、もう一つ意味があるんです。それは「平等」のシンボル「天秤座」です。こういう意味も含めて、大切にしたいものがありますよね。

……と、話が深まってきたところで、会場から発言の要望が。都合 5 名の方がそれぞれの想いを口にされました。そのほとんどは質問ではなく、提案やパネラーへのエール、そして LSC の活動に対するお礼でした。こうした様子にも LSC らしさが現れています。最後に、こうした発言を受けてのパネラー三人の言葉で締めくくりました。

高野：日本はずっと「個」を意識する都市的な傾向が続いてきましたが、最近は「つながり」を求める新しい流れが生まれているように思います。僕も岡崎とのつながりも身近に感じながら、さまざまな意義ある連鎖に取り組んでいきたいと思っています。
杉浦：やっぱり人と人のつながりが基本ですよね。皆さんからのご助言、ご提案待ってます。そして活動への協力よろしくお願いします！
三矢：りぶらは「公共施設と市民協働」という時代のうねりを受けて生まれました。これからも、開かれた施設として、岡崎という街がよくなっていく起爆剤になることを期待したいですね。

三矢 勝司（みつや かつし）
NPO 岡崎まち育てセンター・りた　事務局次長
岡崎市出身。千葉大学大学院にて、市民参加型まちづくりやコミュニティを育む住まいづくりを学ぶ。2005 年に、NPO 岡崎まち育てセンター・りたを設立し、事務局長を務めた（国土交通大臣賞を受賞）。名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センター・特任助教（2012 ～ 2014 年）を経て、2015 年よりりたに復帰。専門は、市民参加による公共空間計画や地域マネジメント、まちづくり支援組織論。博士（工学）。

高野 洋平（たかの ようへい）
有限会社・マルアーキテクチャー級建築士事務所代表
名古屋市出身。千葉大学大学院にて、市民参加による公共施設デザインを学ぶ。現在、建築家として活動する傍ら、同大学院博士課程にも在籍。2003 年、株式会社佐藤総合計画に入社。当時、Libra の建築設計・監理を担当した（公共建築賞優秀賞他を受賞）。2013 年、有限会社・マルアーキテクチャー級建築士事務所を設立し、代表を務める。建築設計から地域づくりまで幅広く活動中。

りぶら中央図書館情報

雑誌スポンサー制度、はじめました。

中央図書館及び南部市民センター図書室では、図書館の所蔵雑誌を広告媒体として活用いただける、「雑誌スポンサー制度」を３月から導入いたしました。図書館で購入する雑誌費用をご負担いただくと、館内閲覧用の最新号カバーへ広告を掲載できるとともに、雑誌架及び図書館ホームページにスポンサーとなっていただいた企業・商店・事業主の方のお名前を掲載させていただきます。

スポンサーとなられた方は自らの事業のアピールをするとともに、資料の提供を通して岡崎市の地域文化にも貢献いただけます。図書館で雑誌をご覧いただいた際、提供スポンサー名の表示がありましたら、どのような方が提供くださったのか注目していただければと思います。

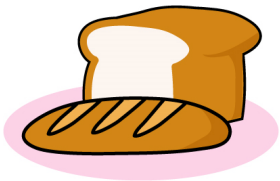
また、制度についてご質問や、ご興味がある方は下記担当までお問い合わせください。

担当：中央図書館 総務班（電話 ２３－３１０３）

館内イメージ

広告掲載イメージ

レファレンス事例集



普段何気なく使っている言葉も「なぜそういうふうに言うのかな？」と、ふと疑問に思うことがありますよね。
今回はそんな素朴な疑問に関するレファレンス事例を紹介します。

質　問	「炊き立て」「焼き立て」で使われる「立て」というのは、どういう意味なのか。
回　答	【資料１】p1000「立て」の項に［接尾］動詞の連用形に付いて、その動作が終わって間もないことを表す。「炊きたての御飯」「蜜柑のとれたて」など。と記載あり。 【資料２】p1740「立て」の項に［接尾］動詞の連用形に添えて、その動作が終わって間もないさまを表す。「でき―」「ペンキ塗り―」と記載あり。
キーワード	「日本語」、「言語」、「語源」
参考資料	【資料１】『日本国語大辞典 第８巻』小学館／ 2001 年／ 031 ニ 16（参考） 【資料２】『広辞苑 た - ん 第６版』吉田 金彦／編著／岩波書店／ 2008 年／ 812.0 コ（参考）

内田修ジャズコレクション CD 第３弾好評発売中です !!

今年４月から販売を開始した CD「内田修ジャズコレクション　カタログ VOL. 2　Late 60’s」が好評発売中です。第３弾となる今作もジャズコレクションの貴重な音源の中から、ジャズ・ピアニストの佐藤允彦氏による監修の下、厳選した楽曲を活用して制作されました。平成 25 年度に発売された「カタログ VOL. 1」では、1960 年代前半の演奏が収録されましたが、「カタログ VOL. 2」では、日本のジャズが豊かな創造性とオリジナリティを獲得し、世界へ羽ばたこうとしていた 60 年代後半の演奏が収録されており、名演揃いの、非常に聴きごたえのある１枚です。

また、ジャズジャーナリスト小川隆夫氏によるライナーノーツ、トランペット奏者日野皓正氏へのインタビューなど、楽曲以外の内容もたいへん充実しています。

この CD は現在、内田修ジャズコレクション展示室にて販売していますが、事前振込または現金書留による遠方からの購入も可能です。価格は１枚 2,000 円で 1,000 枚の限定販売（なくなり次第終了です）。ぜひ手にとっていただきたい資料です。

担当：中央図書館 企画班（電話 ２３－３１６７）

私の一冊　vol.32

「こころ」夏目漱石　新潮文庫

たまたま立ち寄った本屋で、カバーデザインが新しくなった「こころ」が発売されていて、気になったので購入をしました。夏目漱石は僕の好きな小説家のひとりです。彼の小説はこれまで何冊か読みましたが、ゆっくりとした時間の流れる独特な世界観を魅力に感じています。また、美しい文体や日本の古き良き時代の世界観が、日本古典文学の巨匠として彼の多くの作品が今もなお読み継がれている理由なんじゃないかなと思います。

さて、ご紹介する「こころ」は皆さんもご存じかとは思いますが、「吾輩は猫である」・「坊ちゃん」などの作品と並ぶ代表作のひとつです。高校の国語の時間に授業で取り上げられたことを覚えています。その当時は、登場人物が自殺する場面が鮮烈に記憶に残っており、どろどろとした人間模様を描く暗い小説だということを感じました。高校時代に読んだ内容は断片的なものだったので、いつか読了をしたいという気持ちをひそかにもっていました。

当時読んだときのことを思い返し、懐かしい気持ちに浸りながら読み進めました。あらすじを知ってはいましたが、物語が進むなかで明かされる、登場人物である「先生」の秘密に大変に興味がそそられ、最後まで読むことができました。漱石の作品は晩年に向かうにつれて、作風が暗くなっていったといわれます。この「こころ」も晩年に書かれた小説のひとつです。晩年の漱石は自己に固執しない生き方をしようと心がけていたそうで、「こころ」は、自分に固執したために身を滅ぼすことになる登場人物の姿が描かれており、この小説を通して、漱石は自己に固執する生き方に注意を促したのではないかと思います。

現在、私は文化活動推進課の男女共同参画班という部署で働いています。岡崎市男女共同参画サポーターすいか隊や学区女性団体など、さまざまな団体の方と接する機会の多い仕事です。自分のことを優先に考えるのではなく、他人を思いやる心をもって、仕事に臨む姿勢を大事にしていきたいと思います。

石川 哲也
（いしかわ てつや）
文化活動推進課男女共同参画班主事。

りぶらサポータークラブからのお知らせ
杉浦仁美が代表に就任しました

これまで「りぶらサポータークラブ」を牽引してみえた山田美代子前代表の下、副代表として学ばせていただいた経験と新たな挑戦への意欲を持って、「りぶらサポータークラブ」の仕事に努めたいと思っております。

幸い、就任直後の「りぶらフォーラム」の中で、講師両名より協働の大切さへの気づきをいただき、「行政と市民」のみでなく「市民と市民」との協働にも努め、市民と行政を結ぶ中間支援団体としての「りぶらサポータークラブ」の存在意義を、より一層高めて行きたいという新たな目標をいただきました。また、「りぶら」開館前に策定された管理運営計画にも触れ、基本に立ち返り現状に即した対応をするといった指針もいただいたことを感謝しております。

不慣れな点もありますが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

りぶらサポータークラブ　代表　杉浦仁美

私たちは
りぶらの活用と
利用者の活動と
市民の生涯学習を
サポート
しています。

サポーター大募集！

LSC は、活動サポーターと賛助サポーターでできています。それぞれの「できること」がつながって一つの活動になっています。趣旨に賛同いただける方は、ぜひご登録ください。

活動サポーターは、当日のスポット的手伝いから事業ごとの企画運営の手伝いまで、自由に参加できます。

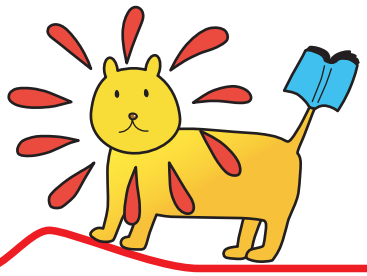
- **無料（登録のみ）**

賛助サポーターは、財政面の支援を担います。

- **個人：1 口　2,000 円（年更新）**
- **法人：1 口 10,000 円（年更新）**

会の目的を達成するには、皆様の賛助・協力が必要です。ぜひご支援ください！

困っている人にかけた何気ない一言から
おだやかな笑顔と安心が生まれたとき
私たちは社会との絆を実感することができます。
かけがえのない自分という素材を
世界とのつながりを深めながら磨いていく。
LSCは、それを日常の中で実現する身近な場所です。
やっているのは、なんでもない普通のこと。
その意味を味わい価値を与える場所は
一人ひとりの内側にあります。
そのことを体と心と頭でわかって行くのは
とても心地よい終わりのない学びです。
さぁ、あなたも！



りぶらいおん©LSC

Libra I on vol.37 2015/6/1 発行　2008/11/1 創刊　◆編集・発行：りぶらサポータークラブ
〒 444-0059　岡崎市康生通西 4 丁目 71 番地　岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内
TEL/0564-23-3114　FAX/0564-23-3142　info@libra-sc.jp　http://www.libra-sc.jp
携帯電話：070-5252-7263 ／ 070-5333-1842　　月・火・木・金：13:30 ～ 16:30

そうだ！りぶらをサポートしよう！
(1) 活動サポーター（登録のみ）
(2) 賛助サポーター（年会費）2,000 円
随時、ご寄付も受付けています。